

## 大学・大学院の新年度ガイダンスにおける性の健康に関する情報提供の調査

NPO法人ピルコン

調査実施期間：2019年4月1日～2019年4月12日

調査方法：インターネットによる無記名アンケート

回答数：60

回答者学年：学部1年生～大学院博士課程

### 質問項目

Q1.あなたの在籍する大学名を教えてください

Q2.あなたの学年を教えてください

Q3.あなたの在籍する大学・大学院の新年度ガイダンスにおいて、性の健康・性教育に関する情報提供はありましたか

Q4.その性の健康に関する情報の内容はどのようなものでしたか？簡単に教えてください

Q5.先ほどの質問の選択肢以外で提供された情報がありましたら、お書き下さい

Q6.大学・大学院からの性の健康に関する情報提供にはどのようなものが必要だと思いますか？

### Q1. あなたの在籍する大学名を教えてください

計42校（2か国、21都道府県）の大学に所属する学生より回答を得た。

【大学一覧】（50音順）

麻布大学	順天堂大学	奈良女子大学
岩手県立大学	椛山女学園大学	新潟大学
愛媛大学	女子栄養大学	日本女子大学
大阪大学	上智大学	日本福祉大学
岡山大学	創価大学	福岡大学
関西学院大学	崇城大学	北海道大学
京都大学	千葉大学	宮崎大学
九州大学	中央大学	武蔵大学
熊本大学	中央学院大学	武蔵野美術大学
群馬大学	筑波大学	横浜国立大学
慶應義塾大学	東京大学	琉球大学
神戸大学	東京外国語大学	早稲田大学
神戸学院大学	東京成徳大学	Santa Monica College
佐賀大学	獨協大学	Temple University

## Q2. あなたの学年を教えてください

回答者の数は多い順に学部4年生（20人）、学部2年生（14人）、学部3年生（13人）、大学院修士課程（6人）、学部1年生（5人）、大学院博士課程（2人）となった。

このデータから、本アンケートの回答者は学部2・3・4年生の回答が多く、幅広い学年からの回答が集まったことが分かった。

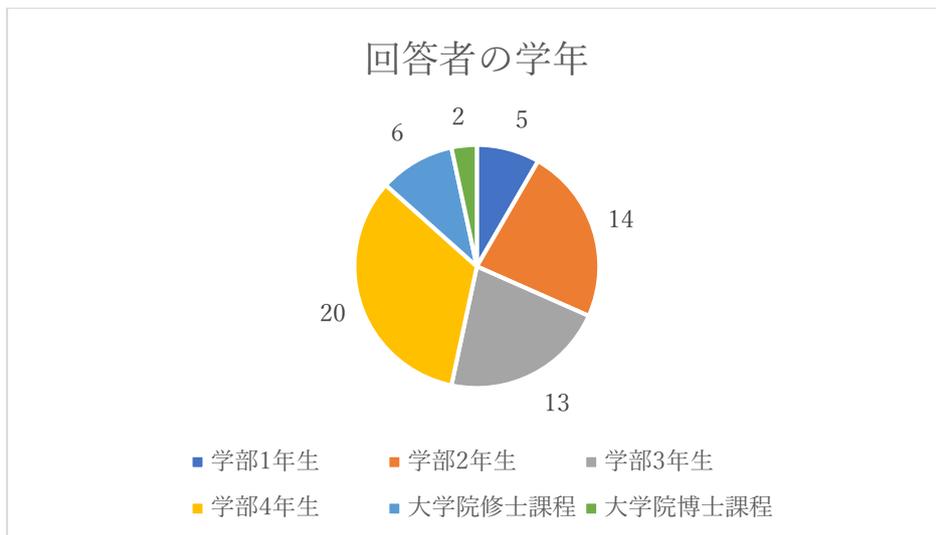


図1 「本アンケート回答者の学年」※単位は人

## Q3. あなたの在籍する大学・大学院の新年度ガイダンスにおいて、性の健康に関する情報提供はありましたか

「はい」と答えた人は **18%**、「いいえ」と答えた人は **82%**となった。

このデータから、82%の回答者が新年度ガイダンスにおいて性の健康に関する情報提供が無かったと回答しており、多くの大学が年度の変り目に性の健康に関する情報提供に努めていないことが示唆される。

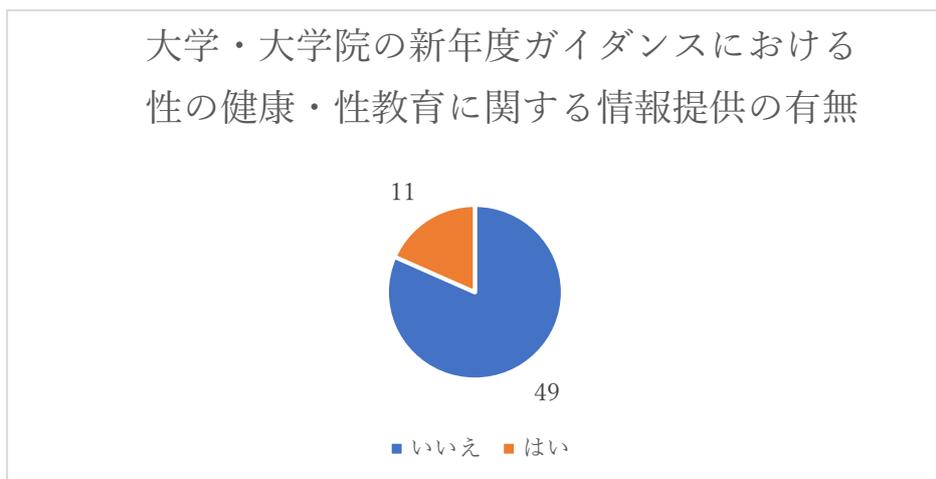


図2 「大学・大学院の新年度ガイダンスにおいて性の健康・性教育に関する情報提供が行われたかどうか」※単位は人

#### Q4.その性の健康に関する情報の内容はどのようなものでしたか？簡単に教えてください

新年度ガイダンスにおいて性の健康に関する情報提供が行われたと回答した11名の中で、場合に大学側が提供した情報の内容として、多い順に性感染症（8人）、避妊・妊娠（7人）、デートDV（5人）、性暴力（4人）、性的同意とLGBTなどの性的マイノリティが共に3人となった。

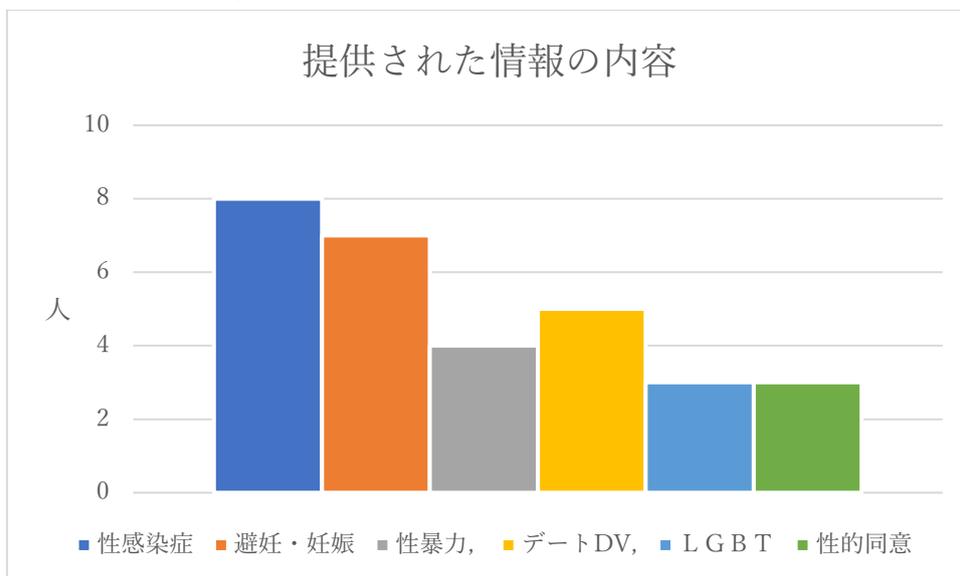


図3 「新年度ガイダンスにおいて提供された、性の健康・性教育に関する情報の内容」

#### Q5.先ほどの質問の選択肢以外で提供された情報がありましたら、お書き下さい

Q4の選択肢以外で提供された情報の内容として、

- ・リベンジポルノ
- ・キャンパス内でセクハラにあった時の相談先
- ・セクシャルハラスメント
- ・学内におけるメンタルヘルスケア等の相談窓口
- ・女子寮生限定のガイダンスにおいて、性に関する情報提供があった
- ・生命倫理の授業での妊娠・中絶の情報

が各1名より回答があった。

#### Q7.大学・大学院からの性の健康に関する情報提供にはどのようなものが必要だと思いますか？

16名の回答者から回答を得ることができ、避妊・性感染症などの知識だけでなく、デートDVや性的同意、セクハラ等、包括的な性の健康に関する情報の提供や相談窓口の情報を求める意見が多く挙がった。

また、性教育に関する授業を必修科目にすることを求める声も複数挙がっていた。(表1参照)

表 1 「回答者が必要と考える、新年度ガイダンスでの性の健康に関する情報提供の内容」

<p>セクハラ、性暴力について困ったときにいつでも相談できる窓口の紹介等</p>
<p>大学内でのセクハラ（教員から、他の学生から、職員からのセクハラ）、妊娠中の学生の処遇について（休学、長期履修などの措置の有無）</p>
<p>対処方法や相談窓口など、何らかの被害や問題が生じた際に取りうることのできる行動に関する情報を具体的に。かつ、なるべく分かりやすく、実行可能だと思ってもらえるように。</p>
<p>デート DV、性的同意、子宮頸がんワクチンの受診勧告</p>
<p>デート DV の相談窓口、近隣の産婦人科の情報、性感染症増加の傾向</p>
<p>疾患別の症状の性差。生殖機能への影響。検査の匿名性。近隣の検査可能施設。</p>
<p>逮捕された事例があること、あとお酒を強要して性行為に及ぶのは犯罪であることを伝える必要があると感じています。</p>
<p>性的同意など、雰囲気が壊れるからやらないといけないということではなく、双方の合意があってできるものであるといくことを多くの人達に知ってもらう。</p>
<p>適切なメディアの提供を、SNS やメールなどで伝える</p>
<p>気軽に見られるポスターの掲示など</p>
<p>全員が一度は出席する必要のある授業等は開講すべきだと思う。性に関する解釈や行動は全て当人の自由だが、正しい性知識を周知させ、ボーダーを固めるというのは非現実的な発想では無いと思う。</p>
<p>すべての学生に対して性的同意や避妊も含む性に関する包括的な情報提供が必要だと思います。</p>
<p>1 コマ分時間を割いてガイダンス(できれば外部講師を呼んで)、リーフレット配布、学内メールを一斉配信、大学の図書館に性教育の本を贈呈、性教育図書コーナーを設ける。内容は性暴力、デート DV、性的同意、避妊、性感染症など幅広く。</p>
<p>避妊について、不正出血などの婦人科の問題がありながら気軽に産婦人科に行ける人が少ないと思うのもっと産婦人科を利用しやすくなる情報、妊娠できる年齢を調べられるなど</p>
<p>僕のアメリカの大学ではコンドームも配っています。そういう活動真面目に大切だと思います。</p>
<p>性に関するあらゆることについての情報提供が全くなされていないどころか、講師のジェンダーに関する知識も低いと感じます。選択科目である保健体育の授業で LGBT という用語を知識として教えるだけで、本来大学生に教えるべき性的同意や避妊方法などについては全く触れられませんでした。</p> <p>特に保健体育の講師が女子力という言葉を使ったり、女子は料理上手くならなきゃといったことを発言したりしたのを、2年前のことですが鮮明に覚えています。</p> <p>高校でも習わず大学でも学ばずではネットや人伝いで間違った知識を得てしまうと思いま</p>

す。理系大学だからやらなくていいわけではなく、きちんと性的同意のとり方、避妊の仕方、性感染症について、性暴力やDVにあったときにどこに頼れるか、など教えるべきだと思います。

<考察>

今回は任意での協力を呼び掛けた調査であり、必ずしも国内における大学の実情をそのまま反映しているわけではないが、これらのデータから、学生が性の健康に関する情報提供を求めているにも関わらず、大学・大学院はそれを十分に行っていないということが推測された。今後大学もしくは地域単位での大規模調査を行うことにより、より具体的なニーズの把握と対策につなげられると考えられる。

授業が選択制となり、全員が同じ授業を受けることが難しい大学において、新年度ガイダンスなど多くの学生が集まる場で、性の健康に関する情報提供を必要とする学生側の要望があることが明らかになった。